



# 穂学

令和6年度 広州日本人学校  
学校だより No.3  
令和6年6月18日  
発行責任者 校長 大久 耕

## 自ら学び個性豊かに国際社会を生きる児童生徒に

新学期がスタートして、2か月余りが過ぎました。児童生徒も学級や教員等、学校生活にも慣れ、一人一人がしっかりと生活を送っています。

これまでもお伝えしてきましたが、本校では、個性豊かに国際社会を生きる児童生徒の育成に向けて、五つのつながり（①授業、②子供たち同士、③保護者・日本人社会、④中国・広州、そして⑤教職員）を大切にしながら教育活動を行っています。



最近では、小学部の東風東路小学との交流会や修学旅行などが行われました。今後さらに小学部では広州市内の施設見学などの校外学習、中学部の修学旅行、職場体験などが予定されています。

児童生徒が学校の内外での活動をとおして、様々なつながりを感じ、よりよい生き方を考える機会にしていきたいと思います。

### 東風東路小学交流（5月28日 小学部全学年）

5月28日（火）に市内の東風東路小学との交流会を行いました。

当日は、300人ほどの児童が来校し、国際交流委員会による歓迎式のあと、各学年に分かれて活動しました。

子供たちは、交流会までに、生活科や総合的な学習の時間に準備を進めてきました。日本の遊びや食べ物、伝統・文化などを伝え、楽しんでもらうとともに、中国語での説明や会話を通して、同世代の中国に直に触れることが出来ました。

事後の反省では、うまくいったこと、いかなかったなどを振り返りながら、今後の学習への意欲を高めていました。



### 小学部修学旅行（6月5日～7日 西安方面）

2泊3日で6年生が修学旅行で西安方面に出かけました。

「兵馬俑と埴輪の違いは？」、「餃子は日本でもよく食べるけれど、日本と中国では、違っているの？」、「回民街（イスラム街）は、どんな雰囲気なの？」、「西遊記に出てくる、三蔵法師（玄奘三蔵）は、どんな功績のある人なのか？」など、事前学習をとおして、それぞれが課題を持って参加しました。

西安の城壁の大きさ、兵馬俑の圧倒的な迫力、1300



年以上前に建てられた大雁塔など、本物に触れながら、学びの多い、思い出に残る3日間となりました。

### ほーやん集会（5月29日）

朝の時間に、児童生徒会主催によるほーやん集会が行われました。今回は、図書委員会から図書室の利用及図書の扱いについてのお知らせとお願いが主な内容でした。

寸劇を交えながら、低学年の児童にもよく理解できるように工夫がされた、すてきな集会でした。特に、大事なことを伝える「図書の神様」は、大人気でした。



### 児童生徒会役員とのランチミーティング（5月28日）

昼食時間を利用して、児童生徒会役員12名（小8名，中4名）と校長，担当教員でランチミーティングを行いました。

これは、今年度の学校教育の重点としている「自ら学ぶ」ことの一環で、児童生徒会役員としてどのような学校にしたいのか、何を頑張っていきたいのかをまず話してもらいました。

その後、校長から役員に次のような投げかけをしました。

- ・ 「AAA（あいさつ，安全，明るい笑顔）」は良い取り組みだが，その活動をとおしてどういう学校を目指していくのか。
- ・ 全校児童生徒や役員からの「学校をよくするための提案」は，どのような手順を踏んで実現していくのか。（一例を校長から提示）
- ・ 広州を離れても，広州日本人学校で学んで良かったと思ってもらえる学校にしていきたい。
- ・ 来年開校30周年を迎える。児童生徒会としても何ができるか一緒に考えて欲しい。

児童生徒と教員が，学校への思いを交換する大変有意義な会となりました。

～学校長日記～

広州に来てから2か月余りが過ぎました。新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限が無くなり、いくつかの学校や幼稚園等を訪問する機会がありました。

どの教育施設からも、取組のヒントを得たり、見学をとおして本校の特長を知ったりすることが出来ました。そのような中で、目指したいのが「子どもたちや教職員の思いが反映されている学校づくり」です。「できない」と言わず、「どこまでできる」、「何ができる」を、子どもたち、教職員とともに考えていきたい、そう強く思っています。